

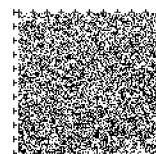
第2章 活動指標について

成果目標を実現するための活動指標として、障害福祉サービス、相談支援、障害児通所支援、障害児相談支援、地域生活支援事業等の必要量の見込み及びその確保のための方策を定めます。

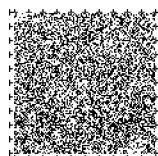
1. 指定障害福祉サービス等・指定通所支援等

(1) サービスの概要

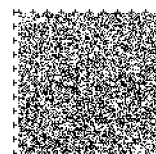
サービス名	内容
訪問系サービス	
居宅介護	自宅で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
重度訪問介護	重度の肢体不自由者、知的障害者及び精神障害者で常に介護を必要とする人に、自宅で入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行います。
同行援護	重度の視覚障害により、移動が困難な人に外出時に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、外出する際の必要な援助を行います。
行動援護	自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行います。
重度障害者等包括支援	介護の必要性がとても高い人に、居宅介護など複数のサービスを包括的に行います。
日中活動系サービス〔介護給付〕	
生活介護	施設や通所において、常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
療養介護	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話をを行います。
短期入所	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
日中活動系サービス〔訓練等給付〕	
自立訓練 (機能訓練)	身体障害者を対象に、身体的リハビリや歩行訓練、コミュニケーション、家事などの訓練、日常生活上の相談支援や就労移行支援事業所などの関係機関との連携調整などの支援を行います。
自立訓練 (生活訓練)	知的障害者・精神障害者を対象に、食事や家事などの日常生活能力を向上するための支援、日常生活上の相談支援や就労移行支援事業所などの関係機関との連携調整などの支援を行います。
宿泊型自立訓練	一定期間、夜間の居住の場を提供し、帰宅後の生活能力等の維持・向上のための訓練を実施します。また、地域移行に向けた関係機関との連絡調整を行います。



サービス名		内容
	就労移行支援	一般企業などへの就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。
	就労継続支援A型	一般企業での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。A型では、雇用契約を結んで就労の場を提供します。
	就労継続支援B型	一般企業での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。B型では企業などやA型での就労経験がある人であって、年齢や体力面で雇用が難しい人や、企業やA型利用に結びつかなかった人などを対象とします。
	就労定着支援	就労移行支援等の利用を経て一般就労へ移行した障害者で就労に伴う環境変化により生活面の課題が生じている人に、相談を通じて生活面の課題を把握するとともに、企業や関係機関等との連絡調整やそれに伴う課題解決に向けて必要となる支援を実施します。
居住系サービス		
	自立生活援助	障害者支援施設やグループホーム等を利用していた障害者で一人暮らしを希望する者等を対象に、定期的に居宅を訪問し生活状況の確認及び助言、医療機関等との連携調整を行うとともに、利用者への相談支援を行います。
	共同生活援助 (グループホーム)	障害者に対して、夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います。
	施設入所支援	生活介護または自立訓練、就労移行支援等の対象者に対し、日中活動と合わせて、夜間などにおける入浴、排せつ、食事の介護などを提供します。
相談支援		
	計画相談支援	障害福祉サービスを利用する全ての障害者を対象に、支給決定又は支給決定の変更前後に、サービス等利用計画案を作成するとともに、一定の利用の期間ごとにサービス等の利用状況のモニタリングを行います。
地域 相談 支援	地域 移行支援	障害者支援施設等に入所している人又は入院している精神障害者を対象に、地域生活に移行するための相談や住居の確保、サービス提供事業所への同行支援等を行います。
	地域 定着支援	施設や病院から地域生活へ移行した人や家族との同居から一人暮らしに移行した障害者等に対し、障害の特性に起因して生じる緊急の事態等に常時相談や対応を行います。



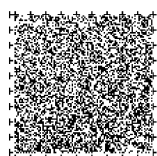
サービス名	内容
障害児通所支援	
児童発達支援	通所により、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与または集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行います。
放課後等 デイサービス	学校授業終了後や休業日に、通所により生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流の促進などの支援を行います。
保育所等訪問 支援	指導経験のある児童指導員や保育士が、保育所などを訪問し、障害児やスタッフに対し、障害児が集団生活に適応するための専門的な支援を行います。
居宅訪問型 児童発達支援	重症心身障害児などの重度の障害児等であって、児童発達支援等の障害児通所支援を受けるために外出することが著しく困難な障害児に、障害児の居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を実施します。
医療型 児童発達支援	上肢、下肢、体幹の機能に障害のある児童に対し、児童発達支援及び治療を行います。
障害児相談支援	障害児通所の利用に際し、障害児支援利用計画を作成。また、通所支援開始後は、モニタリングを行う等の支援を行います。
医療的ケア児コーディネーター	医療的ケアが必要な障害児が、地域生活において必要となる関連分野の支援の調整を行います。



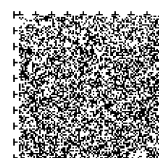
(2) 前期計画期間中の実績

前期計画期間中の障害福祉サービスの実績は、次のとおりです。

区分	サービス名	単位	H30年度(2018年度)		R1年度(2019年度)		R2年度(2020年度)	
			見込	実績	見込	実績	見込	実績見込
訪問系	訪問系サービス 合計	人	858	811	931	845	1,010	845
		時間	20,209	19,777	21,106	20,241	22,057	20,748
	居宅介護	人	735	707	794	734	858	741
		時間	12,296	12,885	12,665	13,528	13,045	13,878
	重度訪問介護	人	32	27	32	27	33	30
		時間	6,266	5,566	6,580	5,289	6,909	5,685
	同行援護	人	76	65	87	69	99	62
		時間	1,236	1,008	1,409	1,071	1,606	933
	行動援護	人	15	12	18	15	20	12
		時間	411	318	452	353	497	252
	重度障害者等包括支援	人	0	0	0	0	0	0
		時間	0	0	0	0	0	0
日中活動系(介護給付)	生活介護	人	761	767	784	777	807	782
		人日	15,102	14,979	15,555	15,240	16,021	15,122
	療養介護	人	100	99	103	104	106	105
		人日	128	123	134	136	140	82
	短期入所 合計	人	128	123	134	136	140	82
		人日	507	599	521	634	535	406
	(福祉型)	人	100	105	102	119	104	78
		人日	395	513	399	554	403	393
(医療型)	人	28	18	32	17	36	4	
	人日	112	86	122	80	132	13	
日中活動系(訓練等給付)	自立訓練(機能訓練)	人	2	5	2	7	1	7
		人日	35	81	26	111	19	132
	自立訓練(生活訓練)	人	28	39	27	50	27	56
		人日	491	552	481	643	471	588
	宿泊型自立訓練	人	13	12	13	12	13	12
		人日	300	316	303	307	306	335
	就労移行支援	人	117	94	125	86	134	78
		人日	1,962	1,661	2,060	1,478	2,163	1,231
	就労継続支援(A型)	人	448	427	475	474	489	493
		人日	8,773	8,362	9,299	9,211	9,578	9,548
就労継続支援(B型)	人	619	619	632	683	638	745	
	人日	10,290	10,260	10,598	11,086	10,704	12,080	
就労定着支援	人	90	27	90	42	90	62	
居住系	自立生活援助	人	20	2	20	0	20	2
	共同生活援助(グループホーム)	人	331	326	364	349	400	384
	施設入所支援	人	362	376	360	374	358	375
相談支援	計画相談支援	人	2,416	2,420	2,566	2,567	2,686	2,761
	地域移行支援	人	12	3	13	26	14	22
	地域定着支援	人	15	21	17	38	19	58



区分	サービス名	単位	H30年度(2018年度)		R1年度(2019年度)		R2年度(2020年度)	
			見込	実績	見込	実績	見込	実績見込
障害児 通所 支援	児童発達支援	人	121	117	135	126	143	140
		人日	1,233	1,266	1,357	1,328	1,424	1,370
	放課後等デイサービス	人	524	485	598	582	640	698
		人日	7,870	6,965	9,523	8,314	10,570	8,486
	保育所等訪問支援	人	35	37	39	43	41	44
		人日	58	58	60	77	61	79
	居宅訪問型児童発達支援	人	10	0	10	0	10	1
		人日	20	0	20	0	20	5
	医療型児童発達支援	人	0	0	1	0	2	0
		人日	0	0	4	0	8	0
	障害児相談支援	人	456	381	496	447	526	523
	医療的ケア児コーディネーター	人	2	2	2	2	2	2

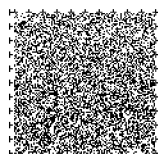


(3) 各サービスの現状と見込み

(3-1) 訪問系サービス

サービス名	居宅介護		
実績と現状	<p>前期計画期間中は、利用者数は見込みを下回り、利用時間は見込みを上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数および利用時間ともに一貫して増加しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	817人 14,632時間	858人 15,217時間	901人 15,826時間
推計の考え方	<p>居宅介護をはじめとする訪問系サービスは、障害者の自宅での日常生活を援助するものとして、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援の根幹となるサービスです。前期計画期間中の傾向、障害者数の推移および指定障害福祉サービス事業所の実態調査(以下、「実態調査」という。)を踏まえ、今期計画の期間中も、利用者数、利用時間ともに増加して推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス事業者に対して情報の提供等を行い、参入促進を図りながら必要見込み量の確保に努めます。 ■ホームヘルパーの養成・確保について、関係機関等が実施する研修に関する情報提供を行います。 ■ホームヘルパーに対する講座・講習などの受講を勧奨し、質の高いサービスの確保に努めます。 		

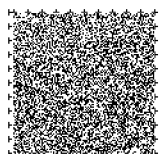
サービス名	重度訪問介護		
実績と現状	<p>前期計画期間中は、利用者数は見込みを若干下回り、利用時間は見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数はほぼ一定であるのに対し、利用時間は令和元年度に減少しましたが、令和2年度は増加する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	30人 5,629時間	30人 5,572時間	29人 5,517時間
推計の考え方	<p>利用者が30人程度と少ないため、利用者数の増減により大きく影響を受ける可能性があります。前期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、利用者数、利用時間ともに同程度にて推移していくものと見込みます。</p>		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■居宅介護と同様に取り組みます。 		



サービス名	同行援護		
実績と現状	<p>前期計画期間中は、利用者数、利用時間ともに見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用時間ともに令和元年度は増加しましたが、令和2年度は減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	63人	64人	64人
	933時間	933時間	933時間
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえ、今後は利用者数、利用時間ともに同程度にて推移すると見込みます。		
確保のための方策	■居宅介護と同様に取り組みます。		

サービス名	行動援護		
実績と現状	<p>前期計画期間中は、利用者数は見込みを下回り、利用時間は見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用時間ともに令和元年度は増加しましたが、令和2年度は減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	15人	15人	15人
	360時間	367時間	374時間
推計の考え方	前期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、今後は利用者数は一定に、利用時間は微増で推移すると見込みます。		
確保のための方策	■市内に対応できる事業所（市内に3事業所のみ）が限られているため、事業所に対し指定基準等の情報提供を行い、また、関係機関が行う強度行動障害に対する研修等を周知することで対応できるヘルパーの増加を図るなど、事業所の確保に努めます。		

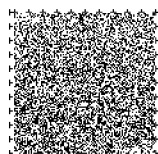
サービス名	重度障害者等包括支援		
実績と現状	<p>前期計画の見込みのとおり利用者はいない状況です。</p> <p>また、市内に同サービスを提供する事業所はありません。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	0人	0人	0人
	0時間	0時間	0時間
推計の考え方	前期計画期間中の実績を踏まえると、今後利用はないと見込みます。		
確保のための方策	<p>■サービス提供を行える要件が厳しい等の理由から、サービスを提供する事業所の整備は進んでいません。令和2年度（2020年度）現在で九州に1事業所しかありませんので、既存のサービスを組み合わせて提供することで対応していきます。</p>		



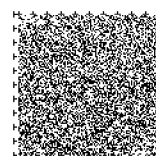
(3-2-①) 日中活動系サービス〔介護給付〕

サービス名	生活介護		
実績と現状	<p>前期計画期間中は、利用者数、利用日数ともに見込みを下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数は一貫して増加して推移していますが、利用日数は令和2年度に減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	797人	813人	830人
	15,425人日	15,733人日	16,048人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数、利用日数ともに増加して推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現在の定員数でも今期計画期間の利用者数をまかなえる見込みですが、地域によっては整備が進んでいない状況があります。今後の整備状況を見ながら、必要な地域への整備が進められるよう努めます。</p> <p>■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。</p>		

サービス名	療養介護		
実績と現状	<p>前期計画期間中の利用者数は、ほぼ見込量どおりに推移しています。</p> <p>医療的ケアに加え、常時の介護を要する特に重度の方が対象となっているため、大きな利用者数の増減はありません。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	109人	111人	113人
推計の考え方	<p>前期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、今後は微増で推移するものと見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■相談支援等を通じて、サービスの提供につなげていきます。市内に対応できる事業所（市内に1事業所のみ）が限られているため、市外の事業所を活用することも含めて、提供体制の確保に努めます。</p>		



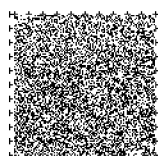
サービス名	短期入所		
実績と現状	<p>福祉型については、前期計画期間中は令和元年度まで見込みを上回り、令和2年度は見込みを下回る値で推移しています。医療型については、見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、福祉型は令和元年度は増加しましたが、令和2年度は減少する見込みです。医療型は一貫して減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	147人	155人	165人
	(福祉型) 132人	(福祉型) 141人	(福祉型) 151人
	(医療型) 15人	(医療型) 14人	(医療型) 14人
	719人日	777人日	841人日
	(福祉型) 640人日	(福祉型) 698人日	(福祉型) 761人日
	(医療型) 79人日	(医療型) 79人日	(医療型) 80人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、福祉型は増加して推移し、医療型は同程度にて推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■本市の場合、グループホームや入所施設の空部屋を利用した「空床型」の利用が大部分を占めており定員の確保が不安定となるため、「併設型」の整備を促進していきます（福祉型）。</p> <p>■受け入れができる施設が限られているため、定員の確保が課題です。市外の施設の利用も含め、提供体制の確保に努めていきます（医療型）。</p>		



(3-2-②) 日中活動系サービス〔訓練等給付〕

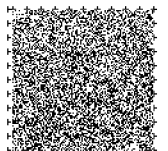
サービス名	自立訓練（機能訓練）		
実績と現状	<p>前期計画期間中は、利用者数、利用日数ともに見込みを大きく上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較についても、利用者数、利用日数ともに一貫して増加しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	8人 151人日	9人 172人日	9人 196人日
推計の考え方	<p>利用者が1桁台と極端に少ないため、利用者数の増減によって大きく影響を受ける可能性があります。前期計画期間中の傾向を踏まえ、今後は同程度で推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現時点において、市内に対応できる指定事業所はない状況です。より身近な地域でサービスを受けることができるよう、事業所の整備促進を図っていきます。</p>		

サービス名	自立訓練（生活訓練）		
実績と現状	<p>前期計画期間を通して、利用者数、利用日数ともに見込みを上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数は一貫して増加していますが、利用日数は令和2年度に減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	57人 600人日	62人 612人日	68人 624人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は微増で推移するものと見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現在、当サービスは需要を満たしています。今後は利用者のニーズの把握等に努め、必要に応じて整備を図っていきます。</p>		



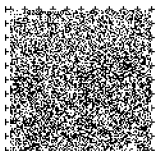
サービス名	宿泊型自立訓練		
実績と現状	<p>前期計画期間中においては、利用者数、利用日数ともにほぼ見込みどおりに推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用日数ともにほぼ一定で推移しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	13人 332人日	13人 328人日	12人 325人日
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は同程度で推移すると見込みます。		
確保のための方策	<p>■共同生活援助など類似サービスの整備状況や利用者のニーズの把握に努め、必要に応じて整備を促進していきます。</p>		

サービス名	就労移行支援		
実績と現状	<p>前期計画期間を通して、利用者数、利用日数ともに大きく見込みを下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用日数ともに減少して推移しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	72人 1,120人日	66人 1,019人日	61人 927人日
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は微減で推移すると見込みます。		
確保のための方策	<p>■障害者の一般就労に重要な役割を持つサービスであり、国の指針においても、福祉施設から一般就労への移行者を令和5年度中に令和元年度実績の1.30倍以上増加することとされています。今後は利用希望の掘り起こしのため、相談支援などを通じて利用促進を図っていきます。</p> <p>■また、継続して、雇用・労働政策と連携した障害者の就業支援に取り組みます。</p>		

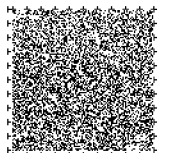


サービス名	就労継続支援（A型）		
実績と現状	<p>前期計画期間中について、利用者数、利用日数ともにほぼ見込みどおりに推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、一貫して増加傾向にあります。前年度からの伸びは少しずつ鈍化してきている状況です。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	542人 10,503人日	597人 11,553人日	656人 12,708人日
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数、利用日数ともに、伸び率は逡減しながら今後も増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■現在、市内の事業所数は増加して推移しています。 ■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。 ■また、継続して、雇用・労働政策と連携した障害者の就業支援に取り組みます。 		

サービス名	就労継続支援（B型）		
実績と現状	<p>前期計画期間中について、令和元年度より見込みを大きく上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、平成30年度まで前年度からの伸びが鈍化していましたが、令和元年度より前年度からの伸びが大きくなってきている状況です。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	820人 13,167人日	902人 14,352人日	992人 15,644人日
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数、利用日数ともに、今後も増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■現在、当サービスは需要を満たしていますが、市内の事業所数は増加して推移しています。 ■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。 		



サービス名	就労定着支援		
実績と現状	平成 30 年度（2018 年度）からの新たなサービスで、前期計画期間中を通して、見込みを下回る値で推移しています。 各年度の実績の比較については、事業の認知に伴い年々増加して推移しています。		
サービス見込量 (1 か月当り)	R3 年度 (2021 年度)	R4 年度 (2022 年度)	R5 年度 (2023 年度)
	94 人	143 人	217 人
推計の考え方	本市では、前期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数、利用日数ともに今後も増加して推移すると見込めます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者の一般就労への定着は重要であり、国の指針においても、令和 5 年度における就労移行支援事業等を通じて一般就労する者のうち 7 割が当事業を利用することとされています。今後、当事業のニーズは高まると予想されることから、事業者に対して情報の提供等を行い、参入促進を図りながら必要見込み量の確保に努めます。 ■また、継続して、雇用・労働政策と連携した障害者の就業支援に取り組みます。 		

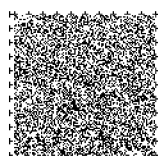


(3-3) 居住系サービス

サービス名	自立生活援助		
実績と現状	平成30年度(2018年度)からの新たなサービスで、前期計画期間中を通して、見込みを大きく下回る値で推移しています。 実績については、平成30年度と令和2年度にわずかに利用があります。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	2人 うち精神 2人	2人 うち精神 2人	2人 うち精神 2人
推計の考え方	利用者が1桁台と極端に少ないため、利用者数の増減によって大きく影響を受ける可能性があります。前期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は同程度で推移すると見込みます。		
確保のための方策	■地域移行支援、地域定着支援等の連携により、必要なサービスの確保に努めます。		

サービス名	共同生活援助(グループホーム)		
実績と現状	前期計画期間を通して、ほぼ見込みどおりに推移しています。 各年度の実績の比較では、一貫して増加しています。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	422人 うち精神 248人	464人 うち精神 295人	510人 うち精神 351人
推計の考え方	前期計画期間中の傾向や実態調査、さらに重度化や高齢化した方の地域移行の受け皿として、今後の需要は一層高まると予想されます。今後も利用者数は増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■グループホームの利用は、施設整備が進むことで増加する面もあるため、施設整備補助などの活用により事業所の整備を促進していき、さらに、利用者の選択肢を広げるためにも、既存の事業所に加え、日中サービス支援型や様々な障害特性に対応できる多様な形態のグループホームを整備していきます。		

サービス名	施設入所支援		
実績と現状	前期計画期間を通して、見込みを上回る状態で推移しています。 各年度の実績の比較では、一貫して同水準となっており、国の方針を受けて、入所者数の削減に努めてきましたが、目標を達成できていません。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	372人	370人	368人
推計の考え方	国の示す方針を踏まえ、令和元年度(2019年度)末の利用者(374人)から1.6%の削減を目標とします。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■地域生活への移行を進める中で、入所者数の削減を進めていく必要はありますが、在宅生活が困難な方に、相談支援等を通じてサービスの提供につながるよう努めていきます。 ■定員増を伴う施設整備は行わないが、耐震化基準など安全性に問題のある老朽施設については、入所者の安全確保のため、施設の更新を促していきます。 		

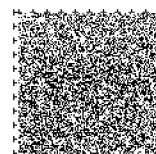


(3-4) 相談支援

サービス名	計画相談支援		
実績と現状	前期計画期間中について、ほぼ見込みどおりに推移しています。各年度の実績の比較については、一貫して増加しています。		
サービス見込量	R3 年度(2021 年度)	R4 年度(2022 年度)	R5 年度(2023 年度)
	2,966 人	3,174 人	3,396 人
推計の考え方	前期計画期間中の傾向、障害者数の推移および実態調査を踏まえ、今後とも増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■サービス事業者に対して情報の提供等を行い、参入促進を図りながら必要見込み量の確保に努めます。また、相談員に対する研修などの受講を勧奨し質の高いサービスの確保に努めます。		

サービス名	地域移行支援		
実績と現状	前期計画期間中については、令和元年度より見込みを上回る値で推移しています。各年度の実績の比較については、令和2年度に減少する見込みです。		
サービス見込量	R3 年度(2021 年度)	R4 年度(2022 年度)	R5 年度(2023 年度)
	19 人 うち精神 13 人	16 人 うち精神 11 人	14 人 うち精神 9 人
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は微減で推移すると見込みます。		
確保のための方策	■現在、当サービスは需要を満たしています。今後は利用者のニーズの把握等に努め、必要に応じて整備を図っていきます。		

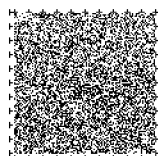
サービス名	地域定着支援		
実績と現状	前期計画期間中については、見込みを上回る値で推移しています。各年度の実績の比較については、一貫して増加しています。		
サービス見込量	R3 年度(2021 年度)	R4 年度(2022 年度)	R5 年度(2023 年度)
	74 人 うち精神 67 人	95 人 うち精神 81 人	122 人 うち精神 98 人
推計の考え方	前期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■地域移行支援と同様に取り組みます。		



(3-5) 障害児通所支援

サービス名	児童発達支援		
実績と現状	<p>前期計画期間中においては、利用者数、利用日数ともにほぼ見込みどおりに推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、一貫して増加傾向にありますが、前年度からの伸びは鈍化傾向にあります。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	151人 1,452人日	158人 1,511人日	163人 1,541人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の実績を踏まえ、利用者数、利用日数ともに今後も増加するものと見込まれますが、前年度からの伸びは鈍化して推移するものと見込みます。</p>		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■適正な運用が図られるよう、相談支援事業所など関係機関との連絡調整を図り、一定のサービスの確保に努めていきます。 ■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。 ■また、児童発達支援の必要見込量の確保とともに、保育所や認定こども園等において、障害児や医療的ケア児などの多様な保育ニーズに対応できるよう、継続して、加配保育士や看護師等の人材確保や研修の実施に取り組みます。 		

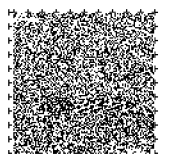
サービス名	放課後等デイサービス		
実績と現状	<p>前期計画期間を通し、利用者数はほぼ見込みどおりでしたが、利用日数は見込みを大きく下回る状態で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、一貫して増加傾向にありますが、前年度からの伸びは少しずつ鈍化してきている状況です。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	756人 11,628人日	816人 12,442人日	849人 12,815人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の実績および実態調査を踏まえ、利用者数、利用日数ともに今後も増加するものと見込まれますが、前年度からの伸びは鈍化して推移するものと見込みます。</p>		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ■現在、市内の事業所数は大きく増加して推移しています。 ■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。 ■また、放課後等デイサービスの必要見込量の確保とともに、学童保育所で障害児や発達の遅れのある児童を受け入れるため、継続して、指導員の加配や研修の実施に取り組みます。 		



サービス名	保育所等訪問支援		
実績と現状	<p>前期計画期間を通し、利用者数、利用日数ともに見込みを上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、令和元年度まで増加していますが、令和2年度は前年度と同程度で推移しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	61人 110人日	74人 134人日	90人 163人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の実績および実態調査を踏まえ、利用者数、利用日数ともに今後も増加するものと見込みますが、前年度からの伸びは鈍化して推移するものと見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現在、当サービスは需要を満たしていますが、障害児の地域社会への参加・包摂（インクルージョン）を推進するため、利用者のニーズの把握等に努め、必要に応じて整備を図っていきます。</p> <p>■また、保育所等訪問支援の必要見込量の確保とともに、保育所や認定こども園等において、障害児や医療的ケア児などの多様な保育ニーズに対応できるよう、継続して、加配保育士や看護師等の人材確保や研修の実施に取り組みます。</p>		

サービス名	居宅訪問型児童発達支援		
実績と現状	<p>平成30年度（2018年度）からの新たなサービスです。</p> <p>前期計画期間中は令和2年度に若干名の利用がありました。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	1人 5人日	2人 10人日	3人 15人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の実績を踏まえ、事業の認知が進むにつれて若干名の利用を見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現時点において、市内に対応できる事業所はない状況です。利用希望者には、市外の施設を活用し、サービスの確保を図っていくこととなります。今後、需要が大きくなることがあれば、市内の事業所に開所を働きかけていくことも検討します。</p>		

サービス	医療型児童発達支援		
実績と現状	<p>前期計画期間中の利用実績はありません。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	0人 0人日	1人 4人日	2人 8人日
推計の考え方	<p>前期計画期間中の実績を踏まえ、事業の認知が進むにつれて若干名の利用を見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現時点において、市内に対応できる事業所はない状況です。利用希望者には、市外の施設を活用し、サービスの確保を図っていくこととなります。今後、需要が大きくなることがあれば、市内の事業所に開所を働きかけていくことも検討します。</p>		



(3-6) 障害児相談支援

サービス	障害児相談支援		
実績と現状	前期計画期間中については、見込みを若干下回る値で推移しています。各年度の実績の比較については、一貫して増加しています。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	596人	679人	774人
推計の考え方	前期計画期間中の傾向、障害者数の推移および実態調査を踏まえ、今後とも増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■計画相談支援と同様に取り組みます。		

(3-7) 医療的ケア児コーディネーター

サービス	医療的ケア児コーディネーター		
実績と現状	医療的ケアが必要な方を含む重症心身障害児・者及びその家族に対して、医療・福祉の両面に通じたコーディネーターを2名設置しています。		
配置人数	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	2人	2人	2人
推計の考え方	今後とも同様の体制を維持していきます。		
確保のための方策	■今後とも同様の体制を維持していきます。		

